

全国ネット通信

平成24年10月1日発行

全国ネット通信 2012 秋号 CONTENTS

エネルギー・環境戦略 市民討議から見えてきたこと／柳下正治	1	川崎市民を対象に討論型世論調査を実施	2
「エネルギー・環境に関する選択肢」説明会を開催	2	低炭素杯の新しいロゴが決まりました!	3
低炭素杯2013エントリー団体の募集を開始	3	3R・低炭素社会検定を実施します	4
櫻田彩子のミニコラム	4	編集後記	4

エネルギー・環境戦略 市民討議から見えてきたこと

上智大学大学院地球環境学研究科教授 柳下正治



神奈川県平塚市出身。1971年 東京大学工学部都市工学科卒業。1999年 国立環境研究所環境研修センター所長、2001年 名古屋大学大学院環境学研究科教授。2005年4月から現職。



政府の「エネルギー・環境会議」は、6月末、エネルギー・環境戦略の選択肢(シナリオ)を提示し、国民的議論を経て8月に意思決定を行うとの方針を示しました。

私は、他の大学研究者と地球温暖化防止全国ネットと協力して、「エネルギー・環境 市民討議 実行委員会」(事務局:全国ネット)を立ち上げ、民間主導により討論型世論調査(DP)を応用した方法でエネルギー・環境戦略に関する市民討議を実施し、その結果を8月17日に公表し、政府の国家戦略室に届けたところです。

民意を有効に政策決定過程に届けるには、パブコメ、意見聴取会等への参加だけでは十分とは覆えません。そこで、社会実装の段階に差し掛かっている「熟議型参加手法」、特に一般国民の意見を集約する方法として「討論型世論調査」に着目し、その方法を用いた国民的討議が効果的だと考え、その実現に向けた準備を4月から開始していました。

討論イベントは8月12日に上智大学で開催することを決め、無作為抽出された川崎市民3,000名に対して、エネルギー・環境の選択に関するアンケート調査(1回目)を実施するとともに、討論イベントへの参加を依頼しました。そして参加意思を示された川崎市民(57名)には、原子力、エネルギーミックス、地球温暖化等の様々な要素が複雑に絡み合い、理解に一定の専門的知識を必要とする討議課題について、事前資料により学習してもらい、更に討論イベントでの市民同士での対話や専門家への質問を行って頂き、こうした熟慮を経て自分自身の意思・意見を、アンケート(2回目、3回目)を通じて表明頂いたのです。

丸一日かかった討論イベントの最後に、アンケートで「シナリオ選択は確信を持って答えられたのか」を質問したところ、96.5%の参加者が「確信をもっ

て答えた」と回答しました。

市民討議の結果のポイントを紹介します。

ゼロシナリオ、15シナリオ、20-25シナリオの3つのうち市民が最も支持したのはゼロシナリオ(2030年までに原発をゼロにすることが中心)でした。56%の市民が支持しました。選択の根拠となった最大の価値判断は安全性の確保でした。「原子力にどう立ち向かうのか」に対する態度表明が、今回のシナリオ選択に結び付いたといえるでしょう。

日本は、20年間以上にわたって、安全性の確保を前提とした原子力利用の推進を地球温暖化対策として位置付けてきました。一見すれば、地球温暖化対策の推進と、脱原発はトレードオフの関係に映ります。しかし、アンケート結果から、温暖化問題に関心の強い者ほど脱原発の傾向が強いという結果でした。そして討議の進展とともに、脱原発に伴う経過的な化石燃料依存の傾向が生じ、それに伴う温暖化対策の遅れはやむを得ないのではないか、再生可能エネルギー大幅導入の実現までの間の原子力利用はやむを得ないのではないか、再生可能エネルギーの大幅導入のための公費投入や国民負担は必要ではないか、といった意見が次第に強くなってきたと思います。また、市民の間での議論の開き、複雑な要素の中での意見の交錯、葛藤している市民の存在等が明らかになったと思います。しかし、参加市民はこの難問に対して真剣に考え、50問もの質問項目に自信を持って答えてくれました。

日本の地球温暖化対策は、もう一度原点に戻って、長期的なGHG(温室効果ガス)大幅削減に向けてのしっかりとした目標と道筋についての国民的な大議論を必要としています。国レベルだけでなく地域レベルでも。そして、その際には、今回用いたような熟議型参加手法を適時的確に活用することを是非ともお勧めしたいと思うのです。

「エネルギー・環境戦略の選択肢に対する自立的国民的議論推進事業」報告 川崎市民を対象に討論型世論調査を実施



地球温暖化防止全国ネットの今年度事業計画にある「エネルギー・環境戦略の選択肢に対する自立的国民的議論の推進」に取り組むため、地球環境基金の助成を受けて、事業を行いました。

5月には「エネルギー・環境戦略 市民討議 実行委員会」準備会を開催し、調査対象地域を川崎市とし、選挙管理委員会へ無作為抽出のための申請を行い、準備を整えました。

6月29日に政府が3つの選択肢を公表してから、討論型世論調査の実施プロセスに沿って事業を進めました。7月上旬の川崎市民3,000人への世論調査(T1)と討論イベントの参加意向、7月下旬の出席確認の電話、8月上旬に「分かりやすい資料」等の送付、そして8月12日に討論イベント(57名参加)を開催しました。参加者には、討論イベントの開始前のアンケート(T2)、6つのグループに分かれた討議と全体会での専門家への質問を2回行った後、アンケート(T3)に回答していただきました。

この3回にわたるアンケートをまとめ、エネルギー・環境戦略の選択肢に対する国民の意見の一つとして、8月17日に柳下正治(上智大学大学院地球環境学研究科教授) 実行委員長名で政府(国家戦略室)に届けました。

この取組みは、多くの新聞・テレビに取り上げられ、多方面から様々な問い合わせを頂きました。

▶ 詳しくは討論型世論調査のホームページまで
<http://www.zenkoku-net.org/ene-kan-kikin24/>



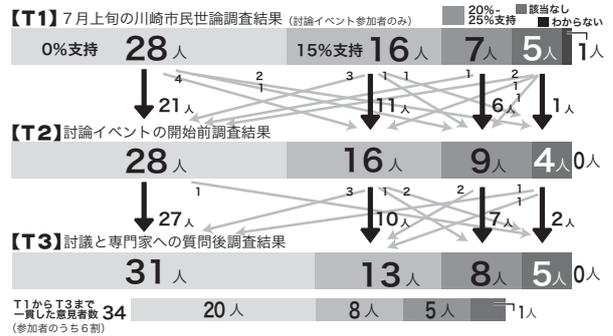
▲グループ討議中の参加市民
◀1グループ約10人ごとに分かれて円卓討議

主な意見の傾向

政府が示した30年の原発比率3案について、討論を踏まえた意見(T3)は、「0%」支持が56%、「15%」支持が23%、「20-25%」支持が14%でした。3回のアンケートにおける意見の推移は、下図の通り、参加者の4割は、途中で意見を変更していました。

また、どれを支持するか「大いに確信を持って答えた」と回答した人は、討論イベント前は42%でしたが、後では68%になりました。

2030年原発依存度に関するT1→T2→T3の意見の遷移



今後、振り返りのシンポジウムを12月2日(日)に川崎市内で開催します。

今回の市民討議の実践が、重要な社会的課題に対して、市民社会が自発的に民意づくりの場を設け、討議を行い、その結果を国や社会に向けて提案・提言をしていく先進的事例になりました。



▲専門家への質問時間の様子
真剣なやり取りが続く

▶ 討論イベント前後には、市民は約40問のアンケートに記入



「エネルギー・環境に関する選択肢」 地域地球温暖化防止活動推進センター等説明会を開催

今回の「選択肢」はエネルギーと環境という視点から原発依存度の低減、エネルギー安全保障に加え地球温暖化問題への対応が論点となっており、どの「選択肢」を選ぶかは、これからの日々の暮らしや社会・経済活動に関わる大変重要な課題であり、その選択は日本の将来のあるべき姿を描くことにつながります。

そこで、全国ネットでは地域センターおよび賛助会員を対象に、政府担当者を招きこの問題に関する説明会を開催しました。この説明会で出た意見と複数の地域センターの意見をまとめて、政府に全国ネットとしてのパブリックコメントを8月10日付けで提出しました。

【説明会概要】

日程：7月19日(木) 14:00~17:30 会場：航空会館

選択肢の説明：環境省地球環境局 総務課低炭素社会推進室

コメンテーター：西岡秀三氏(地球環境戦略研究機関研究顧問)、長谷川公一氏(東北大学教授)

【パブリックコメントの詳細】

次のホームページをご覧ください。<http://www.zenkoku-net.org/topics/topic120810.php>



▲説明会当日の様子

低炭素杯の新しいロゴが決まりました！

一般公募の
応募総数120件！

低炭素杯のロゴマークを公募により決定しました。全国から120作品の応募があり、東京都の立志哲洋さんの作品が選ばれました。

このロゴマークは、炭素を吸収した葉っぱが空に広がっていくイメージで、低炭素社会を築くための様々な活動がいろいろな地域に広がっていくことを表現しています。また、多様な葉っぱのかさなりがハートのマークになり、地球を愛する活動の連携の大切さを表わしています。



低炭素杯2013

新しい低炭素杯ロゴ



集え！伝えよう、低炭素活動

低炭素杯2013 エントリー団体の募集を開始

活動日本一を決定

次世代に向けた低炭素社会の構築をめざして、今年2月に開催した「低炭素杯2012」では、小学生・高校生から地域のくらしのベテランと企業の取り組みまで、多様な団体によって実践されている、自然エネルギーの活用・普及や節電・省エネなど、多くの取り組みが発表され、ノウハウの共有や交流が進みました。

来年、2013年からは、気候変動に関する国連枠組条約の京都議定書における第2約束期間が始まり、温暖化対策も、新たな段階（ネクスト・ステージ）へと歩を進めることが求められています。そのため、「低炭素杯」を引き続き開催し、これまで以上に多様な地域で、多様な主体・セクターの連携を促しながら、低炭素社会の構築に取り組む人々が歩み続けるための基盤としての役割を果たしていくこととなりました。

2013年2月に開催する「低炭素杯2013」に向けて、エントリー団体・企業の募集を開始しました。皆様の応募をお待ちしています。



エントリー受付

2012年9月1日～10月19日必着

あなたの熱い活動を、低炭素杯で伝えてみませんか！

まずは E-mail でエントリー ★★*

- 募集対象 低炭素社会づくり、温暖化防止に取り組む団体・企業
- 部門一覧 地域活動部門、学生活動部門、企業活動部門、ソーシャルビジネス部門
- 応募方法 募集要領、エントリーシートは低炭素杯2013ホームページよりダウンロードして下さい。募集要領をお読み頂き、エントリーシートに必要事項を記入して、締切までにE-mailでご送付下さい。



書類審査 ファイナリスト35団体を選考・通知 11月～12月初旬

審査基準は去年と同じです。活動の貢献度・必要性・先駆性などのほか、部門別の審査基準があります。

プレゼンの事前確認 プレゼン内容の事前提出 12月中頃

ご記入頂いた形式資料をもとに、本戦の事前準備を始めます。

ファイナリスト本戦 低炭素杯2013 開催

会場 東京ビッグサイト(国際会議場ほか)

2013年2月16日(土)17日(日)

当日スケジュール

	2月16日(土)	2月17日(日)
12:00		
13:00	開会式	
14:00	ファイナリストによる プレゼンテーション	特別シンポジウム (フリディッシュ・カウンスル・JICA 協力)
15:00		審査結果発表と表彰式
16:00		閉会式
17:00		
18:00	団体間交流会	
19:00		

プレゼンテーションの形式は自由。各団体の持ち時間は4分。多彩な有識者約10人で構成された企画・審査委員会が、プレゼンテーションを見て最終選考を行い、活動日本一を決定します。表彰は去年とほぼ同様。環境大臣賞、協賛・協力企業/団体賞等があります。

- 【主催】低炭素杯2013実行委員会
 【共催】株式会社LIXIL
 一般財団法人セブソーイレフン記念財団
 一般社団法人地球温暖化防止全国ネット
 【特別協賛】キリンビール株式会社
 日本マクドナルド株式会社
 公益財団法人損保ジャパン環境財団
 【特別協力】独立行政法人国際協力機構(JICA)(予定)
 フリディッシュ・カウンスル
 木屑木材店(北はりま小径木加工センター)
 株式会社オルタナ
 特定非営利活動法人気象キャスターネットワーク
 【後援】環境省
 フラダ構想ネットワーク

詳しくはホームページをご覧ください ▶▶▶▶▶ <http://www.zenkoku-net.org/teitansohai2013/>

3R・低炭素社会検定を実施します

持続可能な社会を目指したうねりが、様々な形で生まれています。

これが確かに社会を動かしていくためには、ベースとなる知識の共有、知識をもった人の動きとつながりも重要と考えられます。中でも重要な2つのテーマ「3R」と「低炭素社会」についての検定試験を実施します。多くの方の受験をお待ちしております。

【試験日程】 2013年1月14日(月・祝)

【試験会場】 関東会場 武蔵野大学有明キャンパス
(東京都江東区有明3-3-3)

ほか地域会場.....
東北会場/中部会場/北陸会場/京都会場
大阪会場/兵庫会場/岡山会場/広島会場
福岡会場/佐賀会場

【受験申請】 2012年10月1日~11月10日(予定)

【検定料金】 両部門 5,250円(税込)
一部門のみ 4,200円(税込)

【申込方法】 インターネット、電話・FAX
※詳しくはホームページもしくは検定事務局へ
検定事務局 TEL 075-641-3220(9時~17時)

【対象範囲】 3R部門
家庭・職場でのごみ削減・適正処理の知恵やそれを支える技術・制度など
低炭素社会部門
世界における温暖化の実態や、家庭・職場・社会における省エネ取組みなど

【検定方法】

テキスト・問題集、講習会資料を中心に各部門100問出され、4択で解答して頂きます。部門ごとに、合格レベルに応じて「リーダー・ゴールド」「リーダー」に認定されます。

【合格発表】 2012年2月中旬

「3R・低炭素社会検定公式テキスト」 全国ネットでも販売しています

「持続可能な社会の構築に向けて」「3R分野」「低炭素社会分野」で構成。最新のデータから、主要な法律・歴史的な流れ、家庭における取組みやライフスタイルまで、幅広く網羅!

3,200円(税込・送料別)



詳しくはホームページをご覧ください

▶▶▶▶▶ <http://www.zenkoku-net.org/topics/topic120509.php>

編集後記.....

国家戦略会議は、「国民的議論で作った戦略」として「原発に依存しない社会の一日も早い実現のため、2030年代に原発稼働ゼロを可能とするよう、あらゆる政策資源を投入する」とした「革新的エネルギー・環境戦略」を9月14日に決定した。

今までエネルギー戦略は、エネルギー産業界を中心に議論され、国民は「蚊帳の外」であった。今回は「国民的議論」を踏まえた、戦略の決定が行われた。国民的議論の方法など改善する課題は様々あるが、国民を巻き込んだ熟議が行われたことは、大変大きな変化である。そして、全国ネットもパブリックコメントを提出するとともに「討論型世論調査」を実施することで、そこに参加した。

「2020年に温室効果ガス25%削減」の国際公約も、国民的議論を通じて実現したいものである。 総務・企画グループ 廣瀬 健二

賛助会員
募集中!

一般社団法人地球温暖化防止全国ネットの
活動をサポートしてください!

年会費：個人会員 1口 5,000円(1口以上) 団体会員 1口 20,000円(1口以上)



合格者の声
職場における環境教育等を行う新しいポストに就くことができた。

合格者の声
合格はゴールではなくスタート。合格者向け勉強会や交流会招待のほか、教材提供も受けられる。

試験対策講習会~関東会場~

合格にむけて講習会限定テキストを参加者全員にご提供いたします。

11月24日(土)	【1日コース】3R部門
11月25日(日)	【1日コース】低炭素社会部門
12月9日(日)	【半日コース・午前】3R部門 【半日コース・午後】低炭素社会部門
12月15日(土)	【半日コース・午前】3R部門 【半日コース・午後】低炭素社会部門

会場 廃棄物・3R研究財団会議室
(東京都墨田区両国3-25-5 JEI 両国ビル8F)

費用 プランA各部門半日コース.....3,800円
プランB各部門1日コース.....6,300円
テキスト(講習会とセットの場合).....2,600円
問題集(3R部門のみ・講習会とセットの場合)1,500円
※公式テキスト定価3,200円 試験問題集定価1,800円 ※金額は全て税込

☆講習会の申込は3R・低炭素社会検定関東地域実行委員会事務局までご連絡ください。(全国ネット TEL 03-6273-7785)

エコアナウンサー

櫻田彩子の ミニコラム

AYAKO SAKURADA PROFILE
宮城県出身。テレビ朝日「ゆうゆう散歩」レポーターほか、低炭素杯2012の司会進行など



私も
賛助会員
です!

オリンピックに沸いたロンドンに行って来ました。「震災で世界中から頂いたご支援に『ありがとう』を伝えよう、そしてこれからも日本を見続けて下さい」という趣旨のイベントのためです。私は、ロンドン出発に先駆けて日本縦断し、沢山のメッセージを携えてそのメッセージをお伝えする大事な役割を頂きました。会場では、共に渡英した陸前高田のけんか七夕太鼓の皆さんの心震える演奏や、福島復興大使の方々の強いお気持ちに真剣に耳を傾けてくれた世界中の方々の様子に、私達スタッフも感謝の思いでいっぱいになりました。



▲陸前高田けんか七夕太鼓の演奏の様子

日本に帰って来て思う事は『ありがとう』の先、です。復旧・復興の先、です。助けてくれた世界中が日本を見ている今、私達はどんな価値を作り出し示すことができるのか。すでにビジョンは見えているのではないのでしょうか。この夏の日本中の節電への意識とその結果が、未来を示す一つの答えのように思えるのです。



編集・発行 一般社団法人 地球温暖化防止全国ネット
〒101-0053 東京都千代田区神田美土代町9-17 神田第三中央ビル5F
TEL. 03-6273-7785 FAX. 03-5280-8100
WEB. <http://www.zenkoku-net.org/>

